

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2004-64725 (P2004-64725A)
 【公開日】平成 16 年 2 月 26 日 (2004.2.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-008
 【出願番号】特願 2002-290541 (P2002-290541)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 3 M 7/42

H 0 4 N 7/30

【F I】

H 0 3 M 7/42

H 0 4 N 7/133 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 7 月 13 日 (2005.7.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として符号化を行う際に用いる可変長符号化方法であって、

符号化対象ブロックの情報を符号化する際に用いる可変長符号化テーブルを、前記符号化対象ブロックの周辺ブロックの情報に応じて決定し、前記符号化対象ブロックと前記周辺ブロックとの大きさが異なる際には、前記周辺ブロックの情報を前記符号化対象ブロックの大きさに変換して使用することを特徴とする可変長符号化方法。

【請求項 2】

前記情報はブロックの有意係数の個数であることを特徴とする請求項 1 記載の可変長符号化方法。

【請求項 3】

画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として符号化を行う際に用いる可変長符号化方法であって、

符号化対象ブロックの係数値を符号化する際に、符号化対象ブロックの大きさ別に異なる確率テーブルを用いることを特徴とする可変長符号化方法。

【請求項 4】

画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として復号化を行う際に用いる可変長復号化方法であって、

復号化対象ブロックの情報を復号化する際に用いる可変長復号化テーブルを、前記復号化対象ブロックの周辺ブロックの情報に応じて決定し、前記復号化対象ブロックと前記周辺ブロックとの大きさが異なる際には、前記周辺ブロックの情報を前記復号化対象ブロックの大きさに変換して使用することを特徴とする可変長復号化方法。

【請求項 5】

前記情報はブロックの有意係数の個数であることを特徴とする請求項 4 記載の可変長復号化方法。

【請求項 6】

画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として復号化を行う際に用いる可

変長復号化方法であって、

復号化対象ブロックの係数値を復号化する際に、復号化対象ブロックの大きさ別に異なる確率テーブルを用いることを特徴とする可変長復号化方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明の可変長符号化方法は、画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として符号化を行う際に用いる可変長符号化方法であって、符号化対象ブロックの情報を符号化する際に用いる可変長符号化テーブルを、前記符号化対象ブロックの周辺ブロックの情報に応じて決定し、前記符号化対象ブロックと前記周辺ブロックとの大きさが異なる際には、前記周辺ブロックの情報を前記符号化対象ブロックの大きさに変換して使用することを特徴として有している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、本発明の可変長符号化方法は、画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として符号化を行う際に用いる可変長符号化方法であって、符号化対象ブロックの情報を符号化する際に用いる確率テーブルを、前記符号化対象ブロックの周辺ブロックの情報に応じて決定し、前記符号化対象ブロックと前記周辺ブロックとの大きさが異なる際には、前記周辺ブロックの情報を前記符号化対象ブロックの大きさに変換して使用することを特徴として有している。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

また、本発明の可変長符号化方法は、画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として符号化を行う際に用いる可変長符号化方法であって、符号化対象ブロックの係数値を符号化する際に、符号化対象ブロックの大きさ別に異なる確率テーブルを用いることを特徴として有している。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また、本発明の可変長符号化方法は、画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として符号化を行う際に用いる可変長符号化方法であって、符号化対象ブロックの係数値を符号化する際に、符号化対象ブロックの大きさに関係なく同じ確率テーブルを用いることを特徴として有している。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

また、本発明の可変長復号化方法は、画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として復号化を行う際に用いる可変長復号化方法であって、復号化対象ブロックの情報を復号化する際に用いる可変長復号化テーブルを、前記復号化対象ブロックの周辺ブロックの情報に応じて決定し、前記復号化対象ブロックと前記周辺ブロックとの大きさが異なる際には、前記周辺ブロックの情報を前記復号化対象ブロックの大きさに変換して使用することを特徴として有している。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 7 】

また、本発明の可変長復号化方法は、画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として復号化を行う際に用いる可変長復号化方法であって、復号化対象ブロックの情報を復号化する際に用いる確率テーブルを、前記復号化対象ブロックの周辺ブロックの情報に応じて決定し、前記復号化対象ブロックと前記周辺ブロックとの大きさが異なる際には、前記周辺ブロックの情報を前記復号化対象ブロックの大きさに変換して使用することを特徴として有している。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

また、本発明の可変長復号化方法は、画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として復号化を行う際に用いる可変長復号化方法であって、復号化対象ブロックの係数値を復号化する際に、復号化対象ブロックの大きさ別に異なる確率テーブルを用いることを特徴として有している。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

また、本発明の可変長復号化方法は、画像を複数のブロックに分割し、前記ブロックを単位として復号化を行う際に用いる可変長復号化方法であって、復号化対象ブロックの係数値を復号化する際に、復号化対象ブロックの大きさに関係なく同じ確率テーブルを用いることを特徴として有している。